

小学校理科教育 実技研修会 終了報告

テーマ	授業で使える実験プラン、教材紹介	
日時	令和 5年 7月 4日(火) 15:00~16:30	
会場	恵庭市立柏小学校 理科室	
講師	<p style="text-align: center;">里 彰浩 氏</p> <p style="text-align: center;">お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 特任講師</p>	
参加者	約 21名	
研修会 の 様子		<p>昨年に引き続き、お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所の里先生に講師をお願いしました。研究所の取り組みや全国の先生方と連携しての事業を紹介していただきました。その後、大きく2つの実験について紹介していただきました。</p>
		<p>4年生の水のゆくえでは、水を沸騰させたときの「あわ」の正体について考えていきます。各教科書会社の実験方法を比較すると、同じような実験方法が載っていますが、なかなかうまくいかない実験です。ここでは、気体採集袋を使った実験方法を紹介していただきました。袋が逆止弁のようになっているので、中に入った水蒸気が逃げない仕組みになっています。とても分かりやすい結果になり、受講者の先生方からも驚きの声が入りました。しかし理科部会の先生方は、クリップの止める位置を変えらるともっとわかりやすいなどのアイデアを出し合い、白熱した議論となりました。</p>
		<p>3年生の「こん虫」の学習内容です。3色の小麦粘土と羽とモールを使って、トンボやちょうの成虫模型をつくる学習です。頭、胸、腹のどの部分から足や羽が出ているかを考えて模型を作り上げていきます。知識としてわかっている、いざ作ってみようとする「あれ??」と思うこともあります。単元のまとめで扱うのか、それでも単元の導入で使うのかによっても、その教材の持つ価値が変わってきます。参加者の先生方からも、自分だったら単元のどこに位置付けるのかいろいろな意見がでました。</p>
		